

事業番号	6
------	---

平成24年度事業評価シート（平成23年度事業の評価）

1. 事業の概要

事業名	語らい読書推進事業				担当課	学校教育課	
事業期間	開始年度	平成22年度	～	終了予定年度	担当係	学校教育係	
総合計画	めざすまちの姿	1人が育つまち					
	目標	② 〈幼稚園〉豊かな人間性の基礎を築く（乳幼児） 〈小学校〉生きる力を育む（学校教育課）					
	成果指標	学校の授業がわかると答える児童・生徒の割合 絵本の貸し出し数（6園の合計の累計）			中間目標（H27）	小 97% 幼10万冊 (5年間累計)	最終目標（H32）
予算区分	一般会計	10 款 教育費	1 項 教育総務費	3 目 教育指導費			
	細事業	231 教育指導関係費					
位置づけ	関連計画						
	根拠法令						
実施主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市 ・ <input type="checkbox"/> 国 ・ <input type="checkbox"/> 県 ・ <input type="checkbox"/> その他						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施・運営 <input type="checkbox"/> 一部又は全部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他（						
対象（誰のため）	<input type="checkbox"/> 全市民 <input checked="" type="checkbox"/> 特定の市民 <input type="checkbox"/> 特定の団体 <input type="checkbox"/> その他						
事業の目的（何のため）	〈幼稚園〉・絵本の読み聞かせや語らい読書を推進する。 〈小学校〉・良書と出会う機会を意図的に設定し、読書に親しみ、本について親子や友達と語らう場を設ける。						
内容（概要）	〈幼稚園〉 ・公立幼稚園の絵本の部屋を充実させ、親子での読み聞かせ読書を奨励する。 ・読み聞かせを通して家庭教育の推進を図る。 〈小学校〉 ・湖西市の小学生に薦める良書を紹介する。また、その発達段階に応じた内容の本の選定し、児童にとって親しみやすく、読書の習慣を身につけることができるよう実施していく。 ・本の損傷がある場合には、必要に応じて修理・補充を行う。 ・市内の小学校教室に毎月違う良書を配置できるように配置計画の立案し、本の巡回を行う。およそ月に1回の巡回を行う。						
これまでの改善・見直しの状況	・これまでの「国語力向上パイロット事業」と「親子読書推進事業」を廃止し、平成22年度から新たに「語らい読書推進事業」を設けた。 ・幼稚園においては、家庭、幼稚園の場で、保護者や教師、ボランティア等が読み聞かせ後、内容についてやりとりする「語らい読書」を展開する。 ・小学校においては、発達段階に応じて図書を選定する。低学年では幼稚園に引き続き「語らい読書」を推奨する。高学年では、学級ごとに月一冊の本を音読し、その本について感想を述べあう場面を設定する。						

2. コスト

（単位：千円）

		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成23年度事業費	
事業費	予算	2,629	676	676	(内訳)	
	決算	2,014	490		物件費〈消耗品費〉	490
財源内訳	国庫支出金					
	県支出金					
	地方債					
	その他					
	一般財源					
職員人件費		3,303	3,513	3,581	人工	0.4 人

3. 事業の評価

事業の実施状況

内容		単位	平成22年度	平成23年度	平成24年度	達成率	
活動指標	絵本の貸し出し数	冊	目標	20,000	20,000	20,000	102%
			実績	23,356	20,369		
	学校教育課事業調査の中での事業についての満足度	%	目標	89.1	90		111%
			実績	77.6	100		
			目標				
実績							
実績・改善	平成23度活動内容	〈幼稚園〉 ・絵本の購入 ・進捗状況集約 〈小学校〉 ・湖西市推薦図書を選定・購入 ・配置計画の立案 ・各校への本の配布（およそ月1回の巡回） ・破損、紛失による補充					
	課題・問題点となった事項	〈幼稚園〉 ・絵本を収納できる数が限られているため、収納数に限りがある。 ・ボランティアによる絵本の読み聞かせが少ない園がある。 〈小学校〉 ・学級担任や担当教諭が破損や紛失に気付くまでに時間がかかり、見逃してしまうこともある。 ・湖西市内に書店が少ない。 ・本の重量があるため、運搬には毎回苦労している。 ・発達段階で読む本の分量が異なるため、期間が適正でない場合もある。 （およそ1か月で巡回している。）					
	どう対処したか	〈幼稚園〉 ・絵本の整理を行い、できるだけ多くの絵本を収納できるようにする。 ・ボランティアによる絵本の読み聞かせを奨励していく。 〈小学校〉 ・不足している推薦図書の調査を定期的に行って、補充している。 ・市内の業者にとらわれず、市外の業者からも購入していく。 ・配置計画を工夫し、巡回の負担を軽減するようにする。 ・推薦図書を呼び水とし、いろいろな本に慣れ親しむように声をかける。					
	改善点	〈幼稚園〉 ・家庭、幼稚園の場で、保護者や教師のボランティア等が読み聞かせの後、内容について、やりとりする「語らい読書」をする。 〈小学校〉 ・発達段階に応じて図書を選定する。低学年では幼稚園に引き続き「語らい読書」を推奨する。高学年では、学級ごとに月一冊を音読し、その本について感想を述べ合う場面を設定する。	効果額 H24-H23 (千円)	186千円			
自己評価	事業目的の達成状況	〈幼稚園〉 ○絵本の読み聞かせや語らい読書を推進することができた。 〈小学校〉 ○発達段階に適した本を子どもたちに提供でき、言語・表現力、さらには豊かな感性や人間性を育むことにつながった。					
	※必要性事業を廃止・休止したときの影響	・表現力や理解力の低下。学習全般の低下。 ・情緒面での成長の低下。					
	判定	A 継続	現行の内容で実施	事業主体	市		
	判定理由	絵本の読み聞かせを通して、豊かな感性の育成や表現力を養うことができるため。					
	今後の方向性	〈幼稚園〉 ○絵本の読み聞かせや語らい読書を推進する。 〈小学校〉 ○推薦図書の見直し、購入と損傷・欠番の本の補充を行う。					